

## 令和2年度 第3回 SDGsに関する万国津梁会議 議事概要

日時：2020年8月18日(火) 15:00~17:30

場所：NIAC大会議室 ほか（オンライン会議）

出席者：島袋 純委員長、蟹江 憲史副委員長、佐喜真 裕委員、佐野 景子委員、玉城 直美委員、平本 督太郎委員

（島袋委員長）

本日は佐野委員が中心になって作成していただいた中間報告その2にて提案されている部分について1時間半程、ステークホルダー会議について30分程度それぞれ議論したい。中間報告その2については、佐野委員と事務局を中心に報告書の取りまとめが行われ、前回日本政府の実施指針の形態と似たような形で理念・優先課題を取り込んでまとめていく。まず佐野委員から、議論しないといけない部分などを含め報告していただく。

（佐野委員）

今お手元にある資料は委員からの具体的な修正提案を取り込んだ版である。

知事に提出することを念頭に「はじめに」を付け、本体は、これから沖縄で使われていく「SDGs実施指針」の案という形にした。実施指針案は日本政府のSDGs実施指針を強く意識して作った。「はじめに」の部分は、前回いろいろ議論した沖縄振興計画との関係について、振興計画の準備検討に資するものになることを我々としては希望しているといった意見・意思の表明とした。

本体（実施指針案）の構成について、「沖縄におけるSDGs」として、現在沖縄でSDGsがどのように進んでいるかを記載し、その次にこれから県民が取り組んでいく「沖縄らしいSDGs」について記載した。また、「沖縄におけるコロナ禍の克服とSDGs」を入れてみた。元々、「沖縄らしいSDGs」の中で、個々のゴールや優先課題を記述する中で沖縄におけるコロナ禍について触れていこうと考えていた。作業中に、蟹江副委員長がメンバーとして参加されている（日本政府の）SDGs推進円卓会議が提言を行っており、これが非常によくまとまっていたので、こういったことを冒頭に書いておくべきではないかと思い、項目を立てた。ここでは沖縄がどういう打撃を受けているかということについて書きたいが、現在は書きかけである。平本委員からの提案であるグリーンリカバリー等について実施指針の後半で言及するためにも、コロナについてまとまった形で書いておきたい。

「沖縄らしいSDGs」の部分では、今まで「共通理念」と言う言い方をしていたが、昨年度の会議資料を見ると「理念」となっており、いつから共通になったのか、何と共通なのかということが明確でなかったため、「基本理念」とした。それに続いて優先課題、17のゴールと

優先的に取り組むターゲットについて記載した。

「沖縄らしい SDGs」については、昨年度の議論の中でも、言葉にしたいけれども言葉にしきれていないということがあったので、今回は残すべきもの・変えていくべきものという提示にとどめている。今回の会議で何か表現しきることができれば書きこんでいくが、「基本理念」の部分として、今回の一番の課題であり、8月末に中間報告書を出すまでに委員の意見が一致する必要がある。

「優先課題」は、日本政府の実施指針の優先課題を見つつ、沖縄 21 世紀ビジョンを作成する際に 1 年間かけて聞いた県民の声と照らし合わせ、さらにおきなわ SDGs パートナー団体からのアンケート回答から皆さんが意識しているターゲットが表すものなどを見て、それらを広くカバーしたまとまりになるよう、10 個の優先課題を設定し、日本政府（の実実施指針）と同じように 5 つの P に分類した。

10 ページ以降は、ゴール 1 から 17 まで、沖縄県として特に見ていくべきターゲットをゴールごとに取り上げて、沖縄県の現状やこれまでの取り組み、これからどのように取り組んでいくのかということについてある程度書き表していく必要があるかどうかを考えた。どのように作成していくのか、どの程度の完成度で 8 月末に中間報告として提出するか、レベル感も含め委員の意見を聞きたい。この実施指針案は年度内で作り上げていくもの、しかもそれはドラフトであって、その後様々な仕組みで見直していくことを想定しているため、(8 月末の) 中間報告としての記載のレベルについては、委員間の意識合わせをしていく必要があると考えおり、現時点ではこの程度にとどめた。

「沖縄における SDGs 推進にあたり重要な視点と取組」は、これまでの会議で（沖縄の SDGs 推進にとって）大事であると言われた事項を取り入れた。ここは委員からいろいろな提案があって加筆している。

「重要な取組」は、推進体制について、プラットフォーム、仕掛け・枠組み等について書く必要があると考えている。スケジュール上、9 月以降に議論することになっているので、現在は文章化していない。

今回、知事への提言ということになるが、基本的な中身としては、県民に SDGs について理解をより深めていただく、普及する、という目的が大きい文書を付ける。その点を意識して案を作成した。本日は、基本理念と優先課題が議論すべき大きなポイントと考える。

（島袋委員長）

私からの修正案の根拠について、8 ページ上部に、2010 年策定の沖縄 21 世紀ビジョンについて書かれている部分があるが、そこに目指すべき 2030 年の沖縄の姿ということで基本理念・達成すべき姿が表れている。「21 世紀に求められる人権尊重と共生の精神をもとに、時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合う、平和で豊かな美ら島沖縄を創造する」という部分である。(昨年度の) 一番初めの会議だったと思うが、SDGs の基本理念としてそのままこれを持ってきてもいいのではないかということについて話したのを記憶している。た

だ、SDGs の基本的な理念・考え方を入れ込んで SDGs の言葉に変えていく必要があるということ、基本的にそのまま原則としてこの言葉を重視して、これに SDGs の要素を入れていくという形でいいのではないかと思い、修正案として「21 世紀に求められる人権尊重と共生の精神」と提示した。そして「精神」の部分のうちな一ぐちでちむぐくと読ませる、というように書き換え、「平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い誰一人取り残さない持続可能な美ら島沖縄の実現」という形で、「誰一人取り残さない持続可能な美ら島沖縄の実現」の前に 21 世紀ビジョンの方の基本理念を少しだけ並べ替えて入れた感じになっている。これで一応、21 世紀ビジョンとそろうという形になるイメージである。

（佐野委員）

（文章として）どのぐらいの長さがいいのか、ともすればんこ盛りになってしまうが、どのあたりを上手く救い上げると沖縄の皆さんが自分たちのものだなという意識になるのか。

（島袋委員長）

私は 21 世紀ビジョンの方の基本理念の文言をそのまま全部取り入れたが、「21 世紀に求められる」など、いらぬのではと思う部分もある。本当は少し削ってもいいのではという部分もある。「共生の精神」と「ともに支えあって」も、被っているかなという気はしたものの、とりあえず全て入れてある。

（佐野委員）

沖縄 21 世紀ビジョンのパンフレットでは「21 世紀に求められる」という文言から始まるが、昨年度行われた総点検の作業の中では「時代を切り開き」という部分からになっている。核となる部分は、パンフレットでも二重括弧で括られている「時代を切り拓き世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな美ら島沖縄」であり、この「沖縄」の修飾語にあたる部分が、目指す沖縄である、と言おうとしているのだと思う。ただ、この議論を続けていくと行き詰まっていく気がする。

（平本委員）

沖縄 21 世紀ビジョンの表現をベースに考えていく際、この文言自体を作る時にどういった手法で作られたのか、そして作られた後それで本当に皆さんがしっくりきているか確認したい。しっくりきていけば、これをベースにというのは正しいと思うが、設定したもののあんまり実は知らない、ピンときていない人が多い、というようなことであれば、どこの部分がピンときていなくてどこは良いかを見極めて、良いところは抽出していく・残していくというような話をした方がいいのではと思うので、その辺りの実態や今どういった状況なのかというのを共有していただけるとありがたい。

(玉城委員)

私の大学では、沖縄 21 世紀ビジョンと SDGs を授業で取り上げている。大学生に率直に、まず SDGs と沖縄 21 世紀ビジョンとどちらを知っているかと聞くと圧倒的に SDGs の方が知られている。けれども沖縄 21 世紀ビジョンの背景について学ぶと、学生は SDGs が今に始まったことではなくて、私たちが今までやってきたことが繋がっているという点にすごくびっくりするし、「時代を切り拓き世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな美ら島沖縄」という文言・キャッチフレーズに関しても納得する。ただ単にこのキャッチコピーだけを見ると確かにスルーされるけれども、沖縄 21 世紀ビジョンを学ぶと、「なるほど、やはりここに集約されるね」ということで学生は納得がいく。

昨年からいろいろな催し物・イベント等を見ていると、SDGs が何か外来からやってきたもの、突然私たちに降ってわいてきたものを押し付けられるのではないかという懸念があるため、そういう意味では沖縄 21 世紀ビジョンにかぶせて進めていくということについて、これがしっかり沖縄に浸透していて皆がすぐに言える、というものではないと思うが、沖縄県民で開発のことを少し勉強するとやはりここに集約される、なんとなくの共通の価値観というのはある程度共有されているかとは思う。ただ末端の、今の生活が精いっぱいという人がこれを見て私たちはここに向かっているということが実感として湧くかと言われたら多分そうではない。けれども少しでも勉強し始めると、これは分かる、という意識かと思う。

(佐喜真委員)

今の基本理念に係る部分で納得性があると言われると、私個人としては納得性がある。今玉城委員がおっしゃったように、昔からあるものでポツと出てきたものではないということを読んでいくうちに知るようになるだろうし、そこも私個人としても同意するところである。お聞きしたいのだがこの「ちむぐる」という言葉は、今どういう意味でお使いなのか、共生の精神という意味で使っているのか伺いたい。

(島袋委員長)

「ちむぐる」は私が括弧で入れた。精神というのをうちな一ぐちで入れないといけないなと思い、「ちむぐる」と入れた。どういう意味で入れたのかというと、同情して共感して、大切に思う心というようなイメージで、人権尊重と共生の精神、両方に掛けているような言葉である。全く同じ立場にたつということである。精神というよりも、「ちむぐりさん」という感覚。本当に困っている人を見たら、自分がそういった状況にあるというような、心に痛さを持つというのが沖縄の特徴なので、これは重要かと思い、括弧して入れた次第である。

(佐喜真委員)

「ちむぐりさん」という、単純に可愛いそうだということではなくて、例えば、あなたがつらいと私も胸が痛いというような、その辺がうまく伝わるとより一層この基本理念が輝い

てくるのかなと思う。誰一人取り残さないというビジョンに照らし合わせると非常に沿った言葉だと思う。

（島袋委員長）

（基本理念について）すべてうちな一ぐちにできないか、例えば人権尊重に「命どう宝」など、沖縄の言葉でイメージできるような沖縄的に腑に落ちるような言葉に変えられないかと考えてみた。なるべく沖縄が今まではぐくんできた気持ちで理解するというのが基本で、特に平和を求めるという点について、平本委員がおっしゃったように主体性なき暴力あるいは構造的暴力と言われているところから解放される・自由になるという部分で、人権の尊重と共生のちむぐぐる、これで平和を求めると言うことができるのではないかと、そういう平和の求め方なのではないかと一緒に考えている。

平和の求め方も、主体性なき暴力から自分たちが連帯し、人々がつながりあう社会をつくるというようなイメージで考え、非常にいい言葉だと思ったので沖縄 21 世紀ビジョンの基本理念から入れた次第である。

（平本委員）

この言葉自体、非常に違和感なく受けられる。もともとは沖縄 21 世紀ビジョンがそのように捉えられているのだということがよくわかるし、それが出た後に、SDGs が出てきて、新たに追加しないといけない項目もその前に認識されていたところがうまく SDGs の文脈で追加されている。さらに「沖縄らしさ」が精神の部分で反映できるような文言であることがきちっと追加されているというのが今の説明だと非常にわかりやすく、そういったことが表現されているとすごく良い。それが明記されていれば、多分皆さんも納得できる部分が多くなると思うし、玉城委員や皆様がおっしゃったように、外から勝手に来たものではなくて元々あったものをうまく生かしながら未来を作っていくという方向であるというメッセージが伝わりやすい。今のご提案を生かしながらそこに込められた思いのようなものを、下に端的に追加していただけるとありがたい。

（佐野委員）

沖縄 21 世紀ビジョンが先にあり、この会議でも出されていた「バックキャストの発想」を、沖縄は以前からやっていたのだということは、「1. (3) 沖縄における SDGs 実施指針の目的」には書き表したが、今、県内の委員からあった、そこに対する思いの部分は書き込みきれていなかったと思うので、書き込むようにしたい。

また、以前、特に県外の委員から、これは沖縄が作る沖縄のものであるけれども、SDGs は世界に繋がるものであり、外から見てもわかるようなものであるべきだという話があった。しまくとぅば、うちな一ぐちを使うことに反対するものではないが、何を取り込むか。基本理念はいわゆる共通語にして、それを表す沖縄の言葉・キーワードということで、「命どう

宝」、「ちむぐる」といった言葉を、共通理念とは違うがセットとして表すやり方もあるのではないか。

(玉城委員)

この沖縄 21 世紀ビジョンについて、先ほど島袋委員長もおっしゃったように、「21 世紀に求められる人権尊重と共生の精神をもとに」という部分は 21 世紀においては当たり前のことで、しかもこの SDGs はもっと先を末永く見ていくという意味で、21 世紀だけに求められるわけではなく、持続という意味で定期的に求められるものであるもので、そこはカットしてもいいのではと思っている。

さきほどの「ちむぐる」という表現一つをとっても、沖縄人同士であっても合意に時間がかかるが、SDGs は「No one left behind (誰一人取り残さない)」などシンプルなワードで言い表せるようになってきている。沖縄のものを多言語に翻訳することを考えると、「時代を切り拓き、世界と交流し、共に支え合う、平和で豊かな美ら島沖縄」という、この「美ら島沖縄」の部分に、持続可能性・ちむぐるなどの様々な要素がおそらく入っていると思う。私は「美ら島」という部分はローマ字で「Churashima」でもいいのでは思っていて、そこに「誰一人取り残さない」を入れて「誰一人取り残さない、持続可能な美ら島沖縄の実現」でもいいのかなと思う。そのため私は沖縄 21 世紀から「精神」の部分のカットし SDGs の要素を入れ込んで、シンプルにした方がいいのではという風に思う。

沖縄語にこだわる必要は非常にあると思うが、それは別のものでこだわった方がいいのでは。この部分はあまり複雑になりすぎると理解だけで時間がかかるのではと思っている。

(平本委員)

基本理念に関わる精神を沖縄の言語でいくつか提示するのはとてもいいと思う。先ほど島袋委員長と佐喜真委員の話であった「ちむぐる」の思いについて、すごくいい考え方・思いだと思う。こういったことは世界的にも評価され、大事にされるべきだと判断される項目・表現だと思うので、明確に打ち出してこの精神がベースでこの基本理念が成り立っているということを示す方がいい。そうすると基本理念の中に一部で入れるよりも、例えば五つ大事な思いがある、というような表現にした方が、外から見たときはすごくわかりやすいかと思う。

経営学的に言うと、基本理念をいつ・何のために使うのかという問題がある。これは企業や地域や国などで、様々なポリシーを作成したりするときに出てくる問題である。企業の中で一番使われて効果があると考えられる時とは、まさに大きな変化が起きている時で、現在のコロナの状況のように、自分の行動を支えているベースが全部崩れてしまうような状況が発生し何をもとに新しい行動を生み出していくかという解釈を考える際に、基本理念に立ち戻ることが必要になる。その時にこの基本理念の表現を見て、自分の行動が正しいかどうか照らし合わせる。例えば 5 つの精神があって、自分の今までの行動が果たして目指す姿に

合っているのかどうか、という判断をしていくのはとてもやりやすいと思う。したがって玉城委員のご意見と同じという思いでいるが、基本理念の部分はもう少し端的にしながらも、沖縄の表現は平行で、引き継いでいく思いなどという形で切り出すといいのではないかと思う。

例えば沖縄が特に大事にしている、ちむぐくるなどの思いを5つ並べて、それに関する解説を書いていき、その5つがそろそろ基本理念が実現できる、という構造などがある。

(佐野委員)

「命どう宝」や「ゆいまーる」といった言葉について、キーワードとするとわかりにくく響かないので、「今大切にすべきもの」と言い換えた上で、沖縄の人ならわかる、若い世代にもわかってほしい、実際に継承していこうとしているもの、基本理念を沖縄のコンテキストに置き換えるとうなる、という、そういう言葉を5つ挙げる。県外の人がこの文章を見て、沖縄はこうやって頑張るんだということを理解するものでもあるので、そこを説明できればと思う。もどかしいのは、これは沖縄の人だから理解できるところがあり、説明を尽くしても尽くしきれない部分がある。沖縄出身の委員の間でも確認し合うようなところもある。(挙げた言葉について)「こういうことだ」ということは一応書けるとは思うが、そこに収まり切れないいろいろなものが含まれており、注釈をつけなければいけない。

(平本委員)

佐野委員のお考えは非常に正しいと思う。15年後に同じ言葉を見て同じように解釈するのが、果たして本当に沖縄にとって正しいのかという話が当然出てくると思う。これについては基本理念を作成した時に起こりうる話で、時代に合わせて解釈を変え、その時点でまた解釈の共有をし、合意していくというプロセスが、腹落ちするうえで非常に大事になる。そういった意味ではSDGsの観点から現時点で解釈するとういう理解になる、ということをあえてきちんと表示するのは非常にいいと思う。

(佐喜真委員)

基本理念について、沖縄県民だけが理解できるものではないと思うので、そこは県外の方、或いは世界の方に向けて発信してもちゃんと理解・共感が得られるものでないといけないと思う。ただし私個人としては、この「美ら島沖縄」の「美ら島」が何を指すのかという部分については、佐野委員からもお示しがあつた通りキーワードとしてしっかり単語の意味も含めて説明・注釈を加えて貰いたいと思っている。ぬちどう宝、ちむぐくる、ゆいまーるといった言葉もあるが、例えば「かなさん」といった、心に訴えかけるような単語をキーワードとして選択できればと思う。

「平和を求めて」という言葉が冒頭にあつた方が、理解しやすいのではと思う。

(島袋委員長)

私は平和というのが沖縄にとっては重要な言葉なので入れた方がいいと思っている。「時代を切り拓き」よりも、「平和を求めて時代を切り拓き」の方がすんなりくるかと思っているので「平和を求めて」という言葉は入れておきたい。

(平本委員)

「平和を求めて」という言葉をつけるのは非常にいいと思う。というのも基本理念を作るときのポイントとして、どこの地域のものか、誰でもわかるキーワードが入っているかどうかというのが、いい基本理念かどうかの判断基準になるからである。日本の中で「平和」と言った際、少なくとも広島・長崎・沖縄という地域に絞られるというのが県外の意見としてはある。そのうえでこの「美ら島」というキーワードは当然沖縄のイメージになると思うので、そういう意味で「平和」というキーワードを基本理念に込めるのはとてもいいと思う。

「時代を切り拓く」という部分で、どちらの方向に行くのか、大きな方向を示すということも基本理念には非常に重要だと思うので、その方向感を表しているという意味でもとてもいいと思っている。

(玉城委員)

平和に関する文言を入れることについて賛成。「時代を切り拓き」という文言について学生と議論をしたことがある。「拓く」という字は、ただ単に窓を開くとかではなく、主体的に何も無いものをお互いに築き上げるという非常に主体性が問われる字である。「ぬちどう宝」にも平和という意味がついているので、沖縄自体が平和を求めて時代を切り拓いて主体的になる、という意味で、最初にその文言を入れることに賛成である。

(佐野委員)

文字にしてみると、「1. 平和を求めて時代を切り開き」、「2. 世界と交流し」、「3. とともに支え合い誰一人取り残さないで、持続可能な」という、並列のようにも見える。「平和を求めて時代を切り拓き」というのは、まさに沖縄がそういった役割を担うべきだということであり、「誰も取り残さない (no one left behind)」というのは沖縄でずっと言われてきたことだと思う。「世界と交流し」という部分も、万国津梁の時代からアジアの中心にあるという点でとてもしっくりくるが、この並列の感じは他の委員も同じであるか。

(島袋委員長)

「平和を求めて時代を切り拓き」の部分は主体の問題で、「世界と交流し」という部分は方法、それから「ともに支え合い誰一人取り残さない」という部分は、成果・目指す方向性というように、立体的な並列と考えるといいのではないかと思う。「持続可能な美ら島沖縄」も、全体的・最終的な姿という感覚で、立体的に動きをイメージして考えるといいと思う。



(蟹江副委員長)

ぱっと見てとても良いフレーズだなと思った。議論に参加していない人が見ても、割とすごく納得しやすい話なんじゃないかと思う。

(島袋委員長)

では本日は基本理念に関して「平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、共に支え合い誰一人取り残さない、持続可能な『美ら島沖縄』の実現」という案でいくということで、一応合意したい。続いて優先課題について議論したい。

(佐野委員)

「⑧ 平和、ユイマールなど『沖縄のこころ』の継承」について、島袋委員長からの修正提案として5つのPの「Peace」から「Partnership」へ入れ替えた。また、「Peace」に基地に関して追加している。

「Partnership」は、平本委員からの修正提案として「⑩ 地域・世代・分野・文化等を超えた多様な交流と連携の創出」「⑪ 世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献」としている。

(島袋委員長)

沖縄 21 世紀ビジョンを参考に、県民意識調査の結果に基づく県民の優先課題をもとにして作成されたということである。

子供の貧困と基地問題の解決について、県民意識調査結果にて重要であるという回答数が特に多かった項目であったためこの部分に関してはやはり優先課題として入れておくべきだと思い、記載している。また、「ゆいまーるなど『沖縄のこころ』の継承」に関して、こちらは SDGs のターゲット 17 の地域のパートナーシップの強化という部分に該当しているのが重要な点ではないかと考え、「Partnership」の項目に移動した方がいいのではと提案した。

(平本委員)

「⑪ 世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献」という部分に関して、非常に沖縄の特色が出ている部分だと思うので、シンプルにわかりやすく表現されていた方がいいかと思う。一方で、⑩の「多様な交流と連携の創出」という部分についても、アジアの重要なハブであるということで沖縄にとっては重要な特色だと思う。「多様な交流」だけだと、何が変わるのかいまいちよくわからなくなる。「People」の①で「性別、年齢、障害の有無に関係なく」というようにきちんと例示が活かされているので、それと同様に「地域、世代、分野、文化を超えた」という文言を、「多様な」という単語にかかるように表現した

のがこの修正点である。

(佐野委員)

県民意識調査の上位 2 つの回答を意識しなかったわけではないが、貧困の問題をどこでどう扱うのが難しい。沖縄 21 世紀ビジョンを作成する際の県民の声などを見ている、「安心して子供を産み育てられる」、「子供が学んでいける」などが挙がっていた。そこから雇用にあたる部分なのだろうかと考えたが、今の沖縄のキーワードとしての「子どもの貧困」としては拾えていない。「③ 教育の充実、地域への誇りと夢・目標を持てる学びの確保」ということと、「④ 安定した雇用に繋がる持続可能な観光の確立と推進、観光と他の産業の連携」で、特に沖縄が柱にしている持続可能な観光に引っかけて、安定した雇用に繋がるという点で、子どもの貧困についてもカバーできればと考えている。ただ、島袋委員長の見解のとおり、子どもの貧困は今の沖縄にとって一つのキーワードにもなっているので、取り込み方を考えないといけない。

基地についても、大変悩ましかったが、沖縄 21 世紀ビジョンの将来像ではもう少し大きな書き方になっており、具体的な県政施策の部分で基地の問題が記載されている。どのレベルで捉えるかについては、今後おきなわ SDGs パートナー会議など含め、県民に聴いてみてもいいのではと思っている。私は本土から来て、生まれながらの沖縄県民ではないので、わかってない部分もたくさんあると思う。基地の問題については、総意として示されているところと、各論において県民の間でいろいろな意見もあるように捉えており、その取り上げ方はなかなか難しいところがあるかと思い、最初の案の中には入れていないということだ。

(佐喜真委員)

米軍基地問題の解決に関して、おそらく選挙の結果等々を見ると県民の総意として捉えられるということも理解できるが、経済的に、普天間基地に残ってもらいたいと考えている方がいらっしゃるのも事実だと思う。この問題が余りにもこれまで政治的な争点化しすぎているため、この米軍基地問題の解決という部分についての文章をピンポイントで入れることで、様々なイデオロギーを持つ方に対して拒否反応を惹起しないかといったところが少し気になる。もちろん平和を希求する気持ちというのは等しく持っているかと思うが、軍用地の売買を生業としている方もいらっしゃり、声を上げにくい方々もいる中で、やや刺激的すぎないかが気になる。もちろん東アジアの平和を構築していくという目的は大賛成なので、もう少し表現の仕方を工夫するなど、丁寧な書きぶりが必要であると思われる。別の万国津梁会議でも基地に関する課題を話し合っているが、住みわけはどうなるだろうか。

(島袋委員長)

SDGs の目標は人権や環境といった課題を国際的な到達水準で考えていくことなので、基地

の問題に関しても SDGs が求めている基準に照らし合わせてそこに近づけていく必要がある、ということかと思う。例えば PFOS や PFOA といった問題に関しても、綺麗な水、飲める水を確保するというのは SDGs が持っている重要な価値感・目標であるため、そういったことを一つ一つでも解決していこう、という意味である。それから、騒音など様々な問題について、我々が生活する水準を SDGs の要求する水準に高めていくという方向性は様々な立場に関係なく、例えば基地と関係の深い生業をやっている方々にも同じ考えで、SDGs が求めている達成の基準を追求していこうといった意味で書かせてもらっている。そういったことがわかるような表現にすることでどうにか残せないかと考えている。

別の基地問題に関する万国津梁会議については、辺野古移設の問題などをターゲットにしているが、こちらは SDGs の万国津梁会議なので、基地についての SDGs 的な目標や形をどう達成していくか、そういった問題意識をもって役割分担をするというイメージでいる。

(蟹江副委員長)

現地にはないので沖縄の中での議論を完全に把握しているわけではないが、基地に関する問題はいろいろな意味で政治的な要素も含んでいる。佐喜真委員がおっしゃったように、賛否が分かれるところもあるのかなという気がする。平和にしていくということ自体がおそらくサステナブルな社会に繋がるかと思うので、例えば「軍事力に頼らないアジア・東アジアでの平和を構築していく」など、もう少し長期的に取り組める表現にすることもできるのではないかと思う。ステークホルダーの方々の会議等で意見を伺って考えるのはいいのと思うが、この点にばかり視線がいつて議論が止まってしまう状態にならないようにすることが大事ではないかと思われる。

(平本委員)

客観的に SDGs の観点からみると、SDGs は対立構造ではなく、いかに共に作っていく構造に切り換えていくかが重要なポイントになってくる。そうすると固有の国名や組織名が出てくるのは対立を生み出すようなことになってしまい、SDGs の文脈を誤って解釈されてしまう危険性が出てきてしまう。そうするとせっかく基本理念を作ったとしても誤解を招くといったことが起きかねない。特に SDGs は波及効果が大きい状態にあるので、本来の意図とは異なる使い方をされないように、文言を厳しくチェックしていかなければならないと思っている。したがってステークホルダー会議の中でみなさんのお声を反映しながら盛り込んでいくことを前提としながらも、重要項目の表現の中に個別の固有名詞が入るのはよろしくないのでは、と思う。

(玉城委員)

基地に関わる様々な人権・環境の問題は、政治的といえれば政治的だが、県民すべての方々に関わる問題が多くあり、サステナブルな社会を作っていくときに私たちが対話を通して

解決しなくてはならない課題である。これは沖縄の独特の課題なので、ステークホルダー等々に通じながらこの問題をどうしたらいいかということのを伺い、私たちがオープンにしていくところが大事なのではないかと思う。

(佐野委員)

最初の案として(基地について)入れなかったが、それは、実務的な話にもなるが、入れた場合に、後でモニタリングを行う時の指標は何か、どういう状態になっていけば達成されたというのか、その点で意見が分かれると思った。沖縄 21 世紀ビジョンや沖縄振興計画での示し方も、基本的に国の責任がある問題であり、日本の安全保障としてのその公平な負担という言い方もしているので、県の計画ベースでも(示し方が)難しく、県民の気持ちにどう沿ってやっていくかという難しいところに、指標を設定して進めていくというのはもっと難しいのではないかと思った。

(島袋委員長)

私が考えていたのは、人権と環境の負荷を SDGs が求めるぐらいには減らしていきたいというイメージである。数値的・指標的には、その環境に対する負荷の部分の指標、例えば水・騒音・人権侵害などに関する指標を参考にして様々な負荷を減らしていくことができないかと考えている。いずれにせよ、私考えている基地に関する問題とは、政治的部分ではなく人権と環境で、この負荷をせめて減らしていくという方向で合意は得られるのではないかと考え、ご提案している次第である。

(蟹江委員)

やはり沖縄の中と外では状況が違うかと思うので、ステークホルダー会議で皆さんの意見を広く伺うのがいいと思う。それで基地に関する問題はやはり入れるべきだというコンセンサスが得られる場合、入れた方がいいのではないか。ここで確定してしまう話ではないのかなという気がする。

(玉城委員)

今まで感情論だったものを、環境や人権といったことを数値化できるもので国際基準に照らし合わせ、例えば同じ米軍基地を受け入れているドイツ・韓国と比較するなどして、SDGs 的にどう考えていくべきか比較し、議論することはできるのではないか。そこで県民が対話でどうしていくかはその時に考えるということで、まずは課題として入れていくことが大事かと思う。

(平本委員)

SDGs に関する取り組みは県外の人にも読んでもらうことを前提に作成しているという観点

からお伝えすると、広島でも同じような議論があった。それは原爆という直接的な表現をするかどうかである。なぜかという平和教育自体がやりたいことなのに、原爆とフォーカスしてしまうと県外の人たちと温度差が大きくなってしまって、県外の人達とのパートナーシップが組みにくくなってしまふからである。したがって広義の平和やSDGsに記載された表現ある武器の廃絶などの表現を提示することで、大きな新しいパートナーシップを生み出していこう、という話になった。私個人としても、この内容については不勉強であるし、当事者というような形でお話することもできないので、県外委員がこんな表現にしたというような形にされるとやりづらい。これは一般の方にとっても接点を持つことが難しいと感じさせるような、大きなパワーワードなのではないかと感じている。この課題については沖縄県内にとってパワーワードであるのと同時に、県外の人にとってもパワーワードであり、ネガティブな効果を生み出しうるということ把握していただいた上で、最終的には県内の委員からのご意見として、それに対する県内のステークホルダーの方のご意見を踏まえて、ご判断いただいた方がいいのかなというふうに思う。

(佐野委員)

今回のおきなわSDGsパートナーへのアンケート結果からは、各団体の活動が直接関わるものでないということかもしれないが、基地に関する問題はあまりすくい取れなかった。入れる・入れない、どちらにしても、課題を提示する側の恣意的な部分が出る。本文の部分ではなくコメント欄等で、取り込まれていない課題があるかどうかの確認として、一例として基地に関する問題を載せて(県民の)意見を聞いてみるのはどうか。

(島袋委員長)

私は重要な課題だと思うので、優先課題として提案したいという気持ちではあるが、平本委員のおっしゃるような話もわかるので、できれば米軍基地という固有の言葉ではなくてもう少し普遍的な言葉で置き換えて優先課題に入れたいと考えているがどうか。

(佐野委員)

基地の存在による現状の問題というだけでなく、私は生半可な勉強ながら、ここに至るまでの歴史的なもの、自己決定権のことなど含め、奥深い問題があると捉えている。沖縄の人だからわかるところもあり、その言葉の出し方は、県外や世界から見ると中(県内)から見ると異なる、ダブルスタンダードを持つものだと思う。やはり(県民の)意見を聞いてみる方がよいと思う。

(玉城委員)

これは県民意識調査から出てきた結果なので、委員の意図で決めるのではなく、まずはこの内容をいれてみたがどうかということステークホルダー会議等にてみなさんに伺い、オ

オープンなプロセスで決めていくことが必要なのではないか。

(佐野委員)

沖縄 21 世紀ビジョンの基本計画では「米軍基地から派生する諸問題及び戦後処理問題への対応」とあり、これは不発弾や戦後処理問題の解決に関する内容だが、こちらを参考に「米軍基地問題」ではなく「米軍基地から派生する諸問題」と表現するのはどうか。それで、県民の意見・反応を見る。県民がそれでよいということになれば、県民がそう判断したということ、その判断へのプロセスを本会議としてサポートする、という整理になるのだろう。

(島袋委員長)

非常に良い提案だと思う。先ほどの平本委員からの意見を参考にして「基地から派生する諸問題の解決の促進」とし、ステークホルダー会議等にて提案するとよいのではないか。続いて各ゴールとその取り組みについて議論したい。これもステークホルダー会議にて提案するイメージか。

(佐野委員)

この部分は、本来、沖縄県の各部局に最新データがあると思うので、内容の確定は年度内と考えていた。もしこの部分が（実施指針案として）肝になるのであれば、粗々でも提案してみる必要があるとは考えている。ゴールとどのターゲットを見るか、どのような方向性を持っていく必要があるかなど、取り組みの方向性の柱だけでも埋める作業を行う必要はあるのかもしれない。17 個のゴールで沖縄が気にしていくべきターゲットを提案し、それぞれの分野で活動しているパートナー団体から様々な意見を出していただくのがいいと思う。

(島袋委員長)

ステークホルダー会議で提案させていただくこの中間報告は最終的な形では全くなく、アンケート調査に基づいて作成された基本的な原型であり、今後パートナーの様々な意見をさらに聞いて最終的なものにしていくというご説明ができればと思う。会議の重要な点として、基本理念と優先課題の案をご提示してご意見をいただく必要がある。優先課題と連携してターゲットに関する議論もしたほうがいいのではないかと思う。

作成中の各ターゲットのマトリクスはおきなわ SDGs パートナー団体からの意見を元にしてるので、取りこぼしが無いかといったことを確認するためにも、一回目のステークホルダー会議はパートナーの団体のみなさんに限定しておきたいという提案があった。二回目以降の会議は様々な方にお声掛けをしていく予定である。

会議の進め方に関する事務局提案として、全体にファシリテーターを配置し、三つのグループに分けて各グループに委員が入って聞き役に徹し議論を進めるやり方が挙げられているが、この内容についていかがか。

(平本委員)

ファシリテーターは聞き役と、意見を引き出していく役割をしなければならない。会議の一番の目的は沖縄県のSDGsパートナーの活性化を重視するということであり、パートナーのみなさんのお考えを理解していく会として位置付けないと、結局はアリバイ作りになりかねない。そのため一人一人が答えやすい質問を提案していく必要があると考えている。ベースとしては、各パートナーのみなさんにご回答いただいたアンケートを基にお話を聞いていくやり方にした方が、自分で書いたものなので答えやすいと思う。また、それに関連して質問の内容や1組織あたりの回答時間などを会議前に提示できれば事前に考える時間を持つことができる。

また、いただいた意見は反映できる仕組みを作っておく必要がある。基本理念に関する意見をもらったとして、全員の声を盛り込んでいくことは現実的には難しいと思われる。そうすると意見を盛り込まれなかった人たちは、結局聞いてもらえなかった、という話になってしまう。そういった投げかけではなく、例えばターゲットに関して、アンケート調査であった上位5項目について提示し、どうしても外せないターゲットがあるという方は理由と共に伝えていただくなど、多数決ではない方法で一人一人の意見をきちんと重視していく姿勢を示す会にするのがいいのではないかと考えている。

今回、事前に3つの質問としてご提案させていただいた。1つ目は、自分がアンケートに回答したことがこの中間報告その2に反映されているかどうか、イエス・ノークエスチョンにすることで意見をだしやすくなる。2つ目は、反映されていないことでぜひ反映してほしいと思うことは何か提示してもらおう。3つ目は、アンケートに書かなかったことで中間報告その2に反映してほしいことは何か提示してもらおう。中間報告その2の説明後にこの質問に回答する時間を設けGoogle Forms等にて入力してもらい、休憩をはさんでデータ化し全員で共有する、といった方法をつかおうと、全体としての意見が見えて各委員から各団体への質問もやりやすくなると思う。アンケートをベースに非常に多様な意見を引き出すことができ、その意見が反映される仕組みを示すこともできるので、当初の目的である活性化にも寄与するのではないかと考えている。

(蟹江副委員長)

この会議自体は、アイデア出しが一番のメインで、漏れているものがあればそれを吸収する場である必要があるのではないかと考えている。それからグループ分けをすることに関して、できれば3つのグループで、それぞれ3つのクエスチョンについて議論していただいて、関心のあるところに移るといった形をとった方が、いろいろなアイデアを吸収するという意味でも広がりが出てきていいのではないかと考えている。

(佐野委員)

一度、事務局内で試行的にやってみたらどうか。

（平本委員）

Google Forms はとても簡単にウェブアンケートをつくれる機能で、質問と回答の項目だけ書けばウェブアンケートが作成される、というアプリケーションである。回答が入力されたらエクセルでいつでも開ける形にアウトプットしてもらえるので、エクセルを使うことができれば誰でも可能である。

（玉城委員）

意見を聴取したら返すという仕組みはちゃんと取った方がいいと思う。パートナー団体として登録してもらった以上、ネットワークで何らかの形で促進したり、参加してよかったと思えたりするのは非常に大事だと思う。会議中の回答を共有する時間がないのであれば、事前にアンケート調査の結果を読んでおいていただければ、今回の提案の理解の促進にも繋がり、その上で意見を聞かせてほしいという会議ということにより参加している感じが気持ちとして湧くのではと思う。

（島袋委員長）

事務局には、佐野委員と相談の上アンケートの分析結果やターゲットのマトリクスなどの資料をパートナー団体に参考資料として使用する旨の連絡をしておいてほしい。また、ステークホルダー会議内の役割分担についてご相談させていただきたい。

（平本委員）

会議全体のファシリテーターとグループのファシリテーターを兼任するのはトラブルに対応できなかつたりするのでやめた方がいい。事務局の方がメインの司会で、一人当たりの発言時間といった時間配分を普段の会議よりも正確決めておいていただければうまく進めていけるのではないかと思う。

（佐野委員）

メインのファシリテーターは県内の委員にお任せした方が参加者にとっても話しやすいのではないかと。例えば玉城委員は大学でもこういったことに慣れておられると思う。グループワークの部分も、平本委員や蟹江委員など、ファシリテートに慣れている委員が担当するのはどうか。

（平本委員）

全体ファシリテートの部分を追ってしまうと、時間のコントロールが難しくなり、一つ一つのパートナー企業に発言してもらおう時間がとても短くなってしまったり議論の不消化にな



ってしまったりする。少なくとも Google Forms にて回答していただいたものを共有する、それに関する結果を全体にフィードバックしていく、という形にしていく方がうまくいくのではないかと思う。

(玉城委員)

全体をコントロールする人がいた方がいいと思っており、微力ながら私が全体の進行をやってもいいと思っている。前もって事務局と一緒に練習することもできるので、その際には大学を活用できる。委員の方には議論の後全体に対して、このグループではこういう議論がでた、こういった意見が参考になった、といった話を共有していただきたい。

(島袋委員長)

3 つのグループよりも 5 つぐらいにすると一人一人の発言の時間を長く確保できると思うので、玉城委員を全体ファシリテーターとし、残り 5 名の委員がグループの聞き役に徹する、というのはいかがか。

(佐野委員)

蟹江副委員長からの、グループごとに異なるクエスチョンを設定して話しやすいグループングにした方がいいのではという提案について、環境や子どもの問題といったイシュー別のグループにして深掘りしていくという考え方がある。一方で、あえて議論が活性化するよう他業種のパートナー同士をませこぜにするという考え方もあると思う。

(平本委員)

クエスチョン自体は同じでもいいかと思う。全体で意見のフィードバックを入れるのであれば、今回は組織の特性で分けてもいいのではないか。話しやすくなったり、意見を提示しやすくなったりという側面もあるかと思う。意見が後ほど共有されてデータでも残るので、多様性も提示できると思う。

(佐喜真委員)

似たような業種で集めることによって似たような意見が出る側面もあるだろうし、いろいろ業種を集めることで多様な意見を拾えるけれども意見が出てこなかったりするなど、どこを重視するかだと思うが、個人的にはどちらに区分けしてもそれなりの意義はあると思っているので委員の方々が進行しやすいようなグループ分けでいいのではないかと思う。

(佐野委員)

企画調整課作成のパートナー団体の属性に関するデータがあるが、医療や教育など、業種でグループングできないこともないと思われる。アンケートの回答をみると業種ごとに関心

のあるゴール・ターゲットの方向は一応同じだが、そうともいきれない団体もあった。関心のある課題で分けるのか、話しやすさという側面から業種イコールイシューととらえ、業種で分けるのか。

（島袋委員長）

今回は業種別で、5つのグループに分けて同じクエスチョンを設定するというのはいかがか。沖縄在住の委員は、事務局の機能をバックアップするためにも、一度パソコン上で実際に操作してみたりする必要があるかと思うのでその場を設けたい。

（佐野委員）

最後に、SDGsの認知度調査の進捗について伺いたい。

（事務局）

別の調査会社が実施しているが、現在の進捗状況としては7月22日に調査票を一斉送付、2,000件送付済みである。8月11日現在で回収率が23.3%と低いので、8月14日から督促状を発送している。8月24日が回答の締め切りで、26日の第4回の万国津梁会議には中間報告という形で単純集計などの形で報告を行える予定。データとして完全にそろえるのは11月ごろかと想定され、その時期ごろには皆さんにまたご提示できるかと思う。それを踏まえてまた最終の提言書をまとめていただければと考えている。

（佐野委員）

設問に関して平本委員や玉城委員から意見が出ていたこともあるので、最終的に配布された設問票を共有してほしい。それにより、回答結果をどのように報告書に取り込んでいくのかのイメージづくりを今からできる。

（事務局）

後ほどメール等にてお送りすることとする。

最後にステークホルダー会議について確認させていただきたい。参加案内先は今回はおきなわSDGsパートナー企業のみ、全体のファシリテーターは玉城委員、5つのグループに分かれ他の委員のみなさんがそれぞれ入る。グループ分けについては共通の属性ということで事務局からパートナー団体に提案する。タイムスケジュールは調整。意見交換のテーマは平本委員からご提案いただいた内容とし、今後会議は年度内に複数回実施する、といった流れで良いか。以上である。

（佐野委員）

最後に思い出したが、琉球大学（島袋委員長所属）、沖縄キリスト教学院大学（玉城委員所

属)、沖縄銀行（佐喜真委員所属）、JICA 沖縄（佐野委員所属）もおきなわ SDGs パートナー団体になっている。委員がパートナー団体としての代表者でなければ、各団体は意見を言う側にもきちんと入ってもらいたいと思う。

（島袋委員長）

了解した。では今日は以上で万国津梁会議を終了する。